

兵衛学生だより



2021
FEBRUARY

No.11

公益社団法人 兵庫県歯科衛生士会

全国に先駆けて、 働き続ける歯科衛生士を支援する 「兵庫県歯科衛生士センター」を創設



公益社団法人 兵庫県歯科衛生士会
会長 高橋 千鶴

新年を迎え、学生会員の皆さんにはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年4月の入学時や進級時には、緊急事態宣言が発令され、新年に入り先日再発令されました。世界的な規模での新型コロナウイルス感染症の感染拡大とは言え、一生のうちに経験することがないであろう想定外のことが次々と起こっています。

この間には、学生の皆さんは、自らのことだけでなく、ご家族のことや皆さんを取り巻く様々な方への思いを新たにされたものと思っています。個人的には、何事もない日常に感謝する場面が多くなったような気がします。

さて、兵庫県歯科衛生士会では、歯科衛生士のライフスタイルに応じた勤務環境を整えるために平成25年6月1日に「ひょうご歯科衛生士人材センター無料職業紹介所」を開設しています。

今年度は、兵庫県から委託された歯科口腔保健における体制整備事業（基金事業）の一環として、「兵庫県歯科衛生士センター」を創設し、兵庫県内の歯科衛生士がそれぞれの地域や職場などで一生歯科衛生士として働くことができる支援を目指して整備しているところです。

このセンターは1. 歯科衛生士のバンク登録 2. ひょうご歯科衛生士人材センター無料職業紹介所の拡充 3. 人材育成 4. 復職支援 5. 市町事業の事業紹介・調整 6. 相談・情報提供 7. 養成機関との連携 8. 災害支援、の

8事業でできています。

歯科衛生士登録（バンク登録）を中心に、県下全ての歯科衛生士に専門性の高い研修会や情報を発信し、地域完結型の歯科保健医療に貢献することで、県民のお口とからだの健康を守ることを目指しています。本事業は、コロナ禍の中での遅れたスタートとなっていますが、次のことを行っています。①兵庫県歯科衛生士センターの創設・機能体制の構築、②歯科衛生士未配置市町等における歯科保健体制の整備、③地域完結に向けた歯科衛生士の人材育成、④ひょうご歯科衛生士人材センター無料職業紹介所の充実です。すでに、歯科衛生士バンク登録に向けては、認定歯科衛生士の194名の取得者の中で、県下の口腔健康管理地域支援リーダー登録のための研修会を開催し、登録者の準備をしています。また、学生会員の皆さんの登録に向けても養成機関との連携を図りながら整備し、様々な情報を発信していく予定をしています。

さらに、県下の全歯科衛生士や学生の皆さんが利用しやすいように歯科衛生士会のホームページもリニューアルする予定をしていますのでご期待ください。

学生の皆さんは、過去の先輩たちが経験したことのない学生生活を送っておられます。このコロナ禍の中での様々な学びは、マイナス面だけでなく、今後、専門職である歯科衛生士として必ず生かされる日が来ることを願っています。

コロナ禍における学院生活を振り返り

兵庫県立総合衛生学院 歯科衛生学科
3年 奥野 梨紗

我が学院では、新型コロナウイルス第一波の流行により、春期においては自宅での課題学習を余儀なくされました。そこから社会情勢を鑑み徐々にオンライン講義を開始。最初は苦戦するも、今ではスムーズに受講できるようになりました。

ところが、春先から夏頃にかけて予定していた小学校や高齢者施設などの臨地実習は、途端に延期もしくは学内実習への振替という形に。第二波が落ち着いてきた頃、ようやく実習先に足を運べるようになり例年通りとはいかないまでも臨床実習を実施することができました。

たしかに、未曾有の事態で困難なことの方が圧倒的に多い中ではありますが、臨床実習ではフェイスシールドや防護エプロンの着用、口腔外パキュームによるエアロゾルの吸引など感染

対策徹底の必要性を改めて理解でき、他にはない経験ができたのではないかと感じております。この経験を活かし、立派な歯科衛生士になりたいと思います。



3密を避け和室に机を置いて模擬試験中

ボランティア活動での学び

神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科
3年 辻村 友里

私は、神戸常盤大学短期大学部の学生生活の中で様々な経験をすることができました。

中でも印象に残っていることは、小豆島でのボランティア活動です。幼稚園やこどもセンターへ行き、手遊びや人形劇による歯科保健指導をしました。普段子どもと関わることがないのでどういう反応をされるのか、どう接したら良いのか不安でしたが、子どもたちは私たちを見るなりすぐに駆け寄ってきてくれて私たちの指導に興味津々に聞いてくれました。

指導するにあたって、先輩方と一緒に、導入方法や使用する媒体について打ち合わせをしました。一年違う先輩方からの意見は具体的で、導入には手遊びをするということや、媒体は人形を使うなどとても勉強になりました。授業を受けるだけでは関わることのない他学科の学生や地域の方々とも交流でき、参加して本当に良

かったと思います。

地域歯科保健活動は、普段の学生生活では経験できないことです。この貴重な経験を生かして、将来は幅広い場面で活躍できる歯科衛生士になりたいと思います。



イベント

◆ 歯っぴーライフ2020に参加して

日時：令和2年11月8日(日)
場所：姫路市歯科医師会館

姫路歯科衛生専門学校

3年 押川 瑠奈・巽 萌嘉

姫路市歯科医師会口腔保健センターで開催された「歯っぴーライフ2020」に参加させていただきました。家族連れの小児から高齢者の方まで、幅広い年齢層の方が参加されていました。

今回、新型コロナウイルスの関係でフェイスシールドを着用しての参加だったため、声の大きさやトーンなど笑顔が伝わるよう意識しながらの対応を心掛けました。なかでも、小児に対してはミラーやタービンに実際に触れてもらうことで少しでも歯科に興味を持ってもらえるよう工夫をしました。また位相差顕微鏡では、今回は新型コロナウイルスの関係で参加者のプラークではなく、私たちのプラークでの観察になってしまいましたが、口腔内に存在している細菌を見てもらうことで口腔清掃への動機づけやモチベーションの強化につながるのではないかと感じました。

参加者の反応を見てみると、どのブースでも興味を持って楽しそうに参加されていたので、このようなイベントを開催することで歯科医院に対する恐怖心を減らし、口腔内についての知識を少しでも身につけてもらえるのではないかと思います。

私たちが将来歯科衛生になった際には、今回のイベントでの経験を活かし患者様のQOLの向上のサポートができるようになりたいと思います。



◆ 第7回歯科衛生学術フォーラムに参加して

日時：令和2年11月22日(日)
場所：兵庫県歯科医師会館

兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院

歯科衛生学科 50回生 中村 優麻

11月22日(日)、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、急遽リモート開催となった歯科衛生学術フォーラムに参加させていただきました。テーマは“リウマチ患者さんへの多職種のかかわり”として医師・歯科医師・看護師・作業療法士の4名の先生によるご講演を聴講し、そこで歯科衛生士はチーム医療の大切な一員だと言うことを学びました。

関節リウマチは良くなったり悪くなったりしながら続く慢性の多発性関節炎であり、関節痛や拘縮、変形などの症状があり、上手くブラッシングが出来ず、口腔清掃不良になりやすいで

す。また治療薬で口腔カンジダ症や口内炎、歯肉出血を引き起こすため、より一層丁寧なブラッシングが必要とされます。

そこで歯科衛生士は、直接患者さんの口腔清掃を行ったり、患者さん自身が歯ブラシを持ってブラッシングできるようにハンドル部分を滑りにくい素材のもので太くしたり、電動歯ブラシを勧めたりすることが、役割であることを学びました。

今回のフォーラムから歯科衛生士は、長期間にわたる運動機能障害や口腔清掃不良に関わり改善を図る重要な立場であり、私も患者さんの病気が少しでも改善に繋がる適切な口腔清掃を行うことができる歯科衛生士になりたいと思います。



